

# 平成26年 年頭のご挨拶



一般社団法人 全国土木施工管理技士会連合会 会長 小林 康昭

新年明けましておめでとうございます。平素から、本技士会連合会の活動に関しまして、全国の各土木施工管理技士会の皆様方から頂いておりますご協力とご理解に、心から感謝を申し上げます。旧年中は、各地の視察、意見交換会や行事への参加などで、お世話になると同時に色々ご助言などを頂きました。厚く御礼を申し上げます。

お陰さまで本技士会連合会は、創設22年目を迎えて、会員数は11万人を超え、CPDS参加者は100万人を超える活況を呈しておりますことは、各技士会の皆様方の日ごろの熱意のあるご活動と会員各位の変わらぬご協力の賜物と感謝致す次第であります。

東北地方の太平洋沿岸一帯を襲った東日本大震災の被災時から早くも2年9カ月を経ましたが、未だに被災地の各地にその爪痕を残しており、復旧復興の進捗は、残念ながら必ずしも順調とは言えません。被災者の方々のご労苦に思いを致すと同時に、今もお日夜を分かたず復旧復興事業に従事しておられる会員企業の方々のご尽力に、深甚なる敬意を表する次第であります。

わが国では、今、全国的なレベルで大震災の怖れが想定されております。また、近年、今までに経験したことがないような異常気象によって、大規模災害が頻発しています。加えて、往年に整備された社会資本の多くが耐用時期の限界を迎えております。こうした趨勢に対する備え、復旧対策、長寿命化対応など、土木技術に寄せられる期待はますます深ま

り、土木技術者の双肩に押しかかる責務は、年を追って大きく重くなっていくはずであります。したがって私ども土木技術者は、その社会的時代的な使命を十分に認識する必要があるわけであります。

ところで、市況の各種指標の動向などから推察するに、閉塞感からの脱却感を抱かせていることは僥倖であります。2020年に開催が決まった東京五輪の招致の成功は、そのひとつでありましょう。これを単なるスポーツ大会の一イベントに終わらせないで、かつての1964年の東京五輪大会の開催時のように、わが国の経済、文化そして社会の新たな飛翔のきっかけにつながることを期待したいと思えます。

こうした時代的な背景に、本技士会連合会では今まで以上に会員の方々にとって、有益かつ意義のある活動に努めてまいりたいと考えております。本技士会連合会活動の中核に育ってきたCPDSは、多くの発注機関が調達制度の中に取り入れる機運にあります。そうした事情も与かって、次第に活動の域が拡大しつつあります。これを多様かつ多面的に活動の輪をさらに拡げることによって、会員の方々の技術研鑽の機会や啓蒙に向けた試みを重ねてまいりたいと考えております

その第一歩に当たる新年を、希望にあふれる良き一年間であることを期待するものであります。皆様方の更なるご活躍、ご健闘を祈念すると同時に、本技士会連合会に対しまして変わらぬご支援とご協力のほどを切にお願いする次第であります。